

偏波レーダの高度利用とそれによる雲・降水・大気水循環研究

雲・降水システムの反射強度・速度だけでなく、内部の粒子の情報を得ることが可能な偏波レーダが導入されて4年になります。これまで様々な観測を行い、多様な観測パラメータの情報を利用する方法の開発を行ってきました。これらの観測データは、雲・降水システム及び大気水循環の研究に新たな知見をもたらすことが期待されます。一方、雲解像モデル CReSS の開発が、当センターのこれまでの計画研究などで行われてきており、精度の高いシミュレーションが可能となってきています。そこで本計画研究では、偏波レーダの様々な観測パラメータの高度利用と、その利用により雲・降水システムおよび大気水循環の様々な研究を行い、さらに雲解像モデルと組み合わせることで、これらについての新たな研究の展開を目的とします。

そこで名大の偏波レーダのデータ及び雲解像モデル CReSS を用いた研究を公募します。観測データ利用については、当センターの教員と調整をし、目的によって提供可能なもの、共同研究として利用を行うもの、提供できないものに区別し、レーダの機器利用については、1年以上の計画を経た上で、原則として当センターの教員と共同で観測を行います。また、雲解像モデル CReSS のみを利用する研究も本計画研究として公募します。